

かごしま林業普及だより

第9号

(令和4年7月)

目次

| | | |
|--|---------------|-----|
| (1) 鹿児島地域森林整備推進会議の開催 | ．．．．【鹿児島地域】 | 1 頁 |
| (2) 森林整備に係る事業体との意見交換会の開催 | ．．．．【南薩地域】 | 1 頁 |
| (3) 新規たけのこ生産者の育成 | ．．．．【北薩地域】 | 2 頁 |
| (4) 林福連携による再造林（植付）研修会の開催 | ．．．．【北薩地域】 | 2 頁 |
| (5) 長島の森林づくり推進協議会の取組 | ．．．．【北薩地域】 | 3 頁 |
| (6) 令和4年度第1回始良・伊佐未来の森林づくり推進プラン 会議ワーキンググループの開催 | ．．．．【始良・伊佐地域】 | 3 頁 |
| (7) 第54回乾椎茸品評会の審査 | ．．．．【始良・伊佐地域】 | 4 頁 |
| (8) 造林作業の省力化や労働強度の軽減の取組 | ．．．．【大隅地域】 | 4 頁 |
| (9) 大隅流域森林・林業活性化センターの取組 | ．．．．【大隅地域】 | 5 頁 |
| (10) 徳之島町立亀徳小学校で森林環境教育を開催 | ．．．．【大島地域】 | 5 頁 |
| (11) 枝物（シキミ，ヒサカキ，サカキ）生産者の養成 | ．．．．【普及指導部】 | 6 頁 |
| (12) 令和4年度林業普及指導員専門研修の開催 | ．．．．【普及指導部】 | 6 頁 |

当センターのホームページが
リニューアルされました！



当センターではtwitterにより
森林環境教育やセンターへの
相談事例の情報を随時発信し
ています！



鹿児島県森林技術総合センター
普及指導部

鹿児島地域

鹿児島地域森林整備推進会議の開催

鹿児島地域の再造林や間伐の推進を図るため、6月15日(水)に林業事業体、市及び地域振興局を構成員とした森林整備推進会議を新型コロナウイルス感染拡大防止の対策(3密の回避)を取りながら開催しました。

会議では、今年度の森林整備(再造林・間伐等)の計画や、再造林推進に関する意見交換を行いました。

特に再造林に関連して、①伐採届出の厳格化、②伐採現地の個別指導(0.5ha以上の伐採地で再造林の計画が無い届出については、適正な伐採と再造林が行われるよう関係市と協同で実施)、③グッズによる(森林所有者への)普及啓発、④市広報誌による森林所有者への普及啓発、⑤事業体連携の促進等を継続し、より一層推進していくこととしました。

また、今年度からの新規事業である「県産材流通コスト低減対策事業」について説明し、各事業体における流通の現状やコスト低減手段等について意見交換を行いました。事業実施に当たり、協議会設置や流通に関する調査などの協力を仰ぎ、了解を得ました。

今年度も、未来の森林づくり推進プランの目標達成や事業推進に向けて、管内の関係者が一丸となって取り組んでまいります。

(中村克之・神志那仁)



啓発用グッズ(エコプリントタオル)



森林整備に係る事業体との意見交換会の開催

皆伐の増加に伴い、当管内においても今後、再造林、下刈の事業量の増加が想定されます。

現在、管内では森林組合が中核となって森林整備等に取り組んでいるところですが、今後の事業量の増加に対応していくためには、現在、県民税事業(間伐)や鱈節用薪材生産に取り組んでいる一人親方的な事業体を含めて規模拡大等に向けた取り組みが必要と考えられます。

このような状況を踏まえ、5月13日(金)に本年度の造林事業、県民税事業の説明会に合わせて、事業体との意見交換会を開催しました。

今回の意見交換会は主に地域振興局からの状況の聞き取りが中心であり、内容としては、①現在の活動内容、②規模拡大(法人化・雇用者数の増など)、③経営計画策定への取組(公共・非公共事業への参入)、④高性能林業機械の導入の意向などについて5つの事業体を対象に行いました。

聞き取りの結果、②については「現在法人化を進めている」、「少しずつでも雇用者数を増やしていきたい」、また、③については「意欲はあるが取組は難しい」など意見が出されました。

結果を受け、規模拡大等の取り組みは、当方の想定よりもハードルが高いことを認識させられました。今後とも継続して意見交換を行い、事業体からの要望の聞き取りや、各種助成制度の情報提供、森林経営計画策定に向けた指導、事業体間の連携等について取り組んでいきたいと考えています。(安樂真一)

南薩地域



意見交換会の状況

新規たけのこ生産者の育成

5月9日（月）にさつま町のたけのこ相談員の竹林で、新規たけのこ生産者8名を対象に、たけのこ生産者養成講座のフォローアップとして、早掘りたけのこの生産や竹林管理等の指導をたけのこ相談員とともに行いました。

地域振興局からは早掘りたけのこの生産や竹林管理について説明を行い、たけのこ相談員から伐竹やウラ止めの実演を踏まえながら説明をしていただきました。

たけのこ相談員からは、伐竹作業では、竹が滑りやすく、はねやすいので安全作業に心がけることと、ウラ止め作業では、折れた先端が頭部に落ちてくる危険性が高いため、作業中は必ずヘルメットを着用するよう指導がありました。

なお、ウラ止めについては、研修に参加された一人一人に体験してもらいました。

説明後、肥培管理や竹材利用など様々な質問があり、予定していた時間はあっという間に過ぎました。

今回の研修により、各生産者の技術向上が図られることを期待しています。
(橋口雅浩)

研修状況



研修状況



林福連携による再造林（植付）研修会の開催

6月15日（水）と16日（木）に実施した社会福祉法人による植林の取り組みについて紹介します。

管内の森林が利用期を迎える中、主伐後の再造林が大きな課題となっています。その要因の一つに担い手の不足が挙げられます。

そこで、担い手として薩摩川内市の「社会福祉法人薩摩ひまわり」と昨年度から打ち合わせを重ね、今回、試験的に植付け作業を体験してもらいました。

初日は、施設の指導職員3名を対象に50本ほど、二日目は、施設利用者6名と指導職員3名で100本のスギコンテナ苗を1時間ほどかけて、約0.06haの民有林に植栽しました。

体験した施設利用者の反応は、現場条件が良いこともありスムーズに作業でき楽しかったとの意見や、指導者からは植栽配置（位置決め）の方法の質問など、今後に向けた前向きな意見をいただきました。

今後は、多様な条件下での作業を重ね、林業事業者が実施する再造林の現場において、協業ができないか模索することとしています。

また、苗木生産への参画についても、地域で実施する苗木生産者養成講座へ参加してもらうよう調整していく予定です。

「社会福祉法人薩摩ひまわり」では、障害者の自立支援のための安定的な事業確保が求められており、これまでに農業との連携は図られていますが、林業との連携は初めてであり期待が高まっています。

これからも関係者一体となって再造林の推進を図っていききたいと思います。
(村岡英樹)

研修状況



研修状況



長島の森林づくり推進協議会の取組

北薩地域

▶ 令和3年度間伐実施箇所



長島の森林づくり推進協議会につきましては、取り組みを初めて今年度で4年目を迎えます。

6月28日（火）に通常総会を開催し、令和3年度の事業報告、令和4年度の事業計画について協議を行ったところですが、今年度の新たな取り組みとして、「獅子島における森林整備」について調査、検討を進めていくこととなりました。

獅子島は、長島町の北部に位置する離島で、「化石の島」としても有名などころですが、過去から積極的なスギ、ヒノキの造林が行われており、林道も多く開設されている島です。

島内の森林資源を見ますと、町有林や県行造林、集落有林を中心に充実してきていますが、木材の島外搬出経費が嵩むことからせっかくの資源が未利用の状態となっています。

このようなことから、獅子島の未利用材の活用に向け、森林整備の方法や島外出荷方法についての検討を今年度行うこととしています。

島外出荷の方法や出荷先の選定など、難しい課題も多いことから、すぐに結果が出ないかもしれませんが、会員全員で意見を出し合い、協力して進めていきたいと思えます。

7月以降、現地調査に向けた準備を進めていくこととしていますので、取り組みが円滑に実施できるようにサポートしていきたいと思えます。
(長谷川徳幸)

令和4年度第1回始良・伊佐未来の森林づくり推進プラン会議 ワーキンググループの開催

始良・伊佐地域

今年6月、管内の3市1町において令和4年度第1回始良・伊佐未来の森林づくり推進会議ワーキンググループを開催しました。

このワーキンググループは、木材の安定供給や再造林、間伐の推進などに関する体制構築に向けた意識の醸成・強化を目的に開催する「始良・伊佐未来の森林づくり推進会議」を補完するため、管内各市町での課題整理や施策実行に向けた問題点などを見いだすため、令和3年度から実施しているところです。

昨年度は、ワーキンググループと称しながら、関係者を多く集め過ぎた結果、余り議論が活発にできなかったという反省から、今年度は人数を可能な限り絞り、ざっくばらんに議論がしやすい雰囲気づくりに努めたところです。

今回は、6月10日（金）の始良市を皮切りに、湧水町、伊佐市、霧島市で開催し、今年度の課題解決に向けて実施する具体的取組の紹介や次年度の地域振興推進事業、森林環境譲与税事業の要望及びさらには始良・伊佐地区未来創造ビジョンの策定に向けた課題の整理について協議したところです。

今後は、このワーキンググループでの検討結果を踏まえ、新たな施策として地域振興推進事業などに反映できるよう関係者と一丸となって頑張っていきたいと思えます。
(山下幸一・岩智洋・鶴田正輝)



R 4 . 6 . 1 5 (湧水町)

第54回乾椎茸品評会の審査

始良・伊佐地域

4月26日（月）に鹿児島県椎茸農業協同組合において開催された「第54回乾椎茸品評会」へ審査員として参加しました。

今回は、袋物の部に11点、箱物の部に7点の出品があり、審査は、森林技術総合センターの林業専門普及指導員1名及び始良・伊佐地域振興局の普及指導員3名で行いました。

出品された乾椎茸は袋物、箱物ごとにどんこ、こうこ、こうしんに分けられており、それぞれ審査を行いました。

審査基準として、品格・菌傘や菌柄の形状及び色沢・大きさ・香り・乾燥の状態等がありますが、甲乙つけがたいものが多く、採点が難しかったため、先輩普及指導員の審査方法を観察し、参考としました。

審査の結果、袋物(各銘柄)、箱物のそれぞれから最優秀賞、優秀賞が選定されました。

最優秀賞については、県知事賞が授与されることとなっています。審査を行うことは非常に難しいと感じましたが、良い勉強となりました。

今後は今回の経験を活かした普及活動を行っていきたいと思っています。
(鶴田正輝)



審査状況



袋物(どんこ)最優秀賞

造林作業の省力化や労働強度の軽減の取組

大隅地域

大隅地域では、今年3月に苗木の運搬作業におけるドローンの活用やアシストスーツによる重作業の軽減等に向けた省力化推進研修を実施しました。早速4月から、現場において取り組みが始まっています。

曾於市森林組合では、4月19日（火）に曾於市内の新植箇所（2.0ha・コンテナ苗5,000本）においてドローンによる運搬作業を実施しました。

作業は、隣接の都城市で農薬散布等の実績のあるドローン作業の専門会社に委託し、パイロット2名、補助者1名、合計3名の作業チームが、事前にマーキングされた荷下ろし位置（10カ所）まで、1フライトで2袋（25本/袋）若しくは3袋を運搬し、荷掛→運搬→荷下ろし→帰着に要する1サイクルの作業時間が約5分の80回の飛行となりました。

ドローンによる苗木運搬は、人力と比較して8～10倍程度の作業の効率化が見込まれるとされています。

今後も作業の効率化とコスト比較等の検証を行いながら取組を進めることとしています。

また、同組合で造林や林産等の労働強度の軽減や腰痛等の未然防止に有効な手段となるアシストスーツの着用体験会を実施しました。作業者の意見を反映しながら現場での普及を進めることとしています。
(浜屋久志)



ドローンによる苗木運搬



アシストスーツ装着の指導



ドローンの操作

大隅流域森林・林業活性化センターの取組

大隅地域

同センターの団地化・担い手部会及び林業成長産業化推進部会において、令和4年度の各プロジェクトにおける研修会や木材流通等に係る協議等の実施計画について協議、意見交換を行いました。

団地化・担い手部会では、森林経営プランナーの養成やスキルアップ研修の実施、若い林業担い手を育成・確保するため、鹿屋農業高校の生徒と林業事業者等の交流会等を実施する計画です。

林業成長産業化推進部会の施業集約化プロジェクトでは、ICTを活用した森林調査等を推進する実践的研修等の実施。

低コスト素材生産推進プロジェクトでは、簡易で丈夫な道づくりを行う森林作業道作設オペレーター養成研修や低コスト作業システム研修会等の実施。

原木流通効率化推進プロジェクトでは、AI判読径級検知アプリ等を活用した木材の仕分け技術研修会の実施や原木安定供給等に係る情報交換会の開催。

木材需要創出プロジェクトでは、CLT等を活用した木造施設の見学会等の実施。

再造林推進プロジェクトでは、森林所有者や伐採事業者等へ再造林の呼びかけを行うパンフレットの作成や事業者のぼり旗の掲揚、ドローンを活用した苗木運搬等の省力化の研修、機械下刈りによる労働力軽減試験、優良苗木の安定供給に向けたコンテナ苗の生産技術研修等を実施する計画としています。

また、林業事業者の委員等から、森林認証の推進や造林地におけるシカ被害対策等の意見が出され、大隅地域のモデル的な森林認証取得の取組や森林管理署等と連携したシカ被害対策の研修会の実施について、協議しながら進めていくこととしています。
(下田誠司)



部会の開催状況（令和4年6月30日）

徳之島町立亀徳小学校で森林環境教育を開催

大島地域

毎年、管内の小中学校を対象に森林環境教育を実施していますが、今年度は、徳之島町立亀徳小学校の3年生19名を対象に樹木観察活動、自然観察活動及び木工体験活動の3種類の体験活動を実施することとしています。

徳之島町で実施するという事で、林務水産課徳之島町駐在の上敷領技術専門員に協力をいただき、第1回目の樹木観察活動（樹名板作製）を6月13日(月)に実施しました。（当日は1名欠席の18名）

2～3時間目の時間をいただき、校内にある樹木18種類の特徴や名前の由来について解説すると、児童は解説に「へえー」と感心の声を上げ、目を輝かせながら聴き入っていました。事前準備のおかげで、スムーズに樹木観察活動は進行され、途中で雨が降るアクシデントに見舞われたものの、無事に観察を終えることが出来ました。

休憩後、おさらいの意味で樹木クイズを実施しました。特徴が記載された用紙に樹木名を10問記入してもらったのですが、みんなで答えを出し合いながら楽しくクイズに回答していました。

最後に残った時間で地元産のリウキュウマツを使用した樹名板の作製を行いました。児童は、樹名板にくじ引きで決まった樹木名を記入し、思い思いにシーグラスや貝殻をグルーガンで接着し、飾り付けも行いました。装飾の時間がみんな足りなかったようですが、時間の都合で泣く泣く終了となりました。樹木への取り付けは、学校の方へお願いして、その日は無事に終了しました。（その後樹名板も取り付けいただきました。）

残り2回の活動も児童に興味を持ってもらえるものにしていきたいと思っています。
(永野昌伸)



樹木観察



樹名板

枝物（シキミ、ヒサカキ、サカキ）生産者の養成

6月9日（木）に開催された「枝物生産者養成講座」において枝物栽培の基本や挿し木技術について指導を行いました。

枝物栽培の基本では、栽培のポイント、用途、主な病害虫の特徴や発生時期と使用する農薬の種類や正しい取り扱い方、散布の際の注意点等について説明しました。

挿し木実習では、成功のポイントとなる良い穂を採取することや発根しやすい環境づくり、採穂の時期、挿し穂の作り方等を説明した後、プランターを使用したシキミ、ヒサカキ、サカキの挿し木を行いました。実習では、挿し穂は通直で、太くて固い枝や葉が固くなった物を選ぶよう指導しました。

挿し木は梅雨時期が適期となっており、挿し木から根が生えてくるのは2～3ヶ月後になりますが、受講生に1年前に挿し木を行った苗木を見せると、その根の多さにほとんどの受講生が驚いていました。

今後、この講座では台木の仕立て方、くくりの作成法、優良生産者の視察、苗木の定植実習等が実施されますが、講座を通じて新規生産者の確保・育成が図られるよう、知識・技術の普及を行っていきたく考えています。
(重森宙一)

普及指導部

室内学習



挿し木実習



令和4年度林業普及指導員専門研修の開催

林業普及指導員の専門研修は、林業普及指導員のより一層の資質向上と指導能力の向上を図るため、毎年実施しています。

今回、前期研修を6月20日（月）から21日（火）の2日間の日程で実施しました。

1日目は、森林技術総合センターにおいてワイヤアისプライスの実践後、午後から鹿児島大学農学部附属高隈演習林において、今年の4月に取得した森林認証（SGEC）の概要や取得の経緯等について説明を受けました。

2日目は、①昨年度の森林作業道作設コンクールで最優秀賞を受賞した伊佐森林組合の「関白陣線」において、排水処理や土工締め固め等の状況調査。②早生樹であるコウヨウザンの造林を行っている三好産業（株）の現場において、生育状況の確認や課題等についての意見交換。③バーク敷設による下刈の省力化実証を行っている伊佐愛林（有）の現場において、下草繁茂状況の確認や施工性等についての意見交換。④6月に本格稼働している湧水町の MEC Industry（株）において、製材棟、製造棟などの視察を実施しました。

雨の中での研修となりましたが、特に森林作業道の現場では雨水の流れが確認でき、現場で工夫した作設状況が良くわかりました。

今後、習得した知識・技術を普及活動の現場で活かしていただきたいと思います。
(池松武史)

普及指導部

高隈演習林



森林作業道

